



別府市の立命館アジア太平洋大学（APU）の学生団体がウェブドラマを製作しています。

①ウェブドラマ製作の目的は何ですか？

.....
.....
.....
.....
.....
.....

茶房たかさきで最終話の撮影をする学生＝別府市朝見



【別府】温泉に漬かつて心身を癒やす湯治文化を若い世代にも紹介しようと、別府市の立命館アジア太平洋大（APU）の学生団体「Youth since 2019（ユース）」がウェブドラマを製作している。タイトルは「to BE（トゥービー）」。疲れた若者に、別府で癒やしの体験をしてほしいと、全国の若者に発信する。

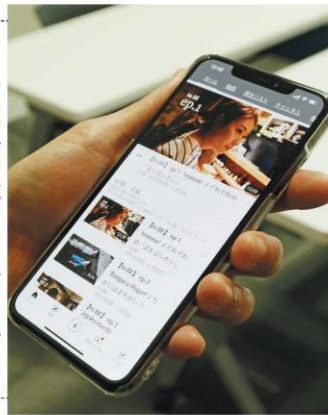
APU学生団体がウェブドラマ製作

②製作しているドラマはどのような内容ですか？

.....
.....
.....
.....
.....
.....

「若者誘致の起爆剤に」

YouTube（アップロードされたドラマ）スマートフォンからも見ることが出来る。



テレワークやオンライン授業で疲れている若い世代に湯治文化を広め、観光客誘致に結びつけることが目的。物語は、都会での生活に疲れた男性が学生時代を過ごした別府に戻るところから始まる。地元の人や学生と一緒に市内の豊かな温泉や食文化に触れるなかで英気を養い、自分らしく生きる道しるべを見つける――

湯治の魅力 全国に発信



ドラマの配信チャンネルにつながるQRコード

ドラマの製作指揮を執る同団体の平末健人さん（23）は「同大4年」は「ドラマが全国の若者を誘致する起爆剤になればうれしい。作品を通して少しでも町の魅力を伝えたい」と話した。（大崎優志）

全17話 毎週日曜配信

制作には、同団体が呼び掛けて集まった学生有志約20人が参加。撮影は全て市内であり、飲食店や宿泊施設など計17店が登場。出演者や脚本、衣装製作をメンバーが手掛ける完全オリジナル作品で、毎週日曜日に団体のYouTubeチャンネルで配信する。1話当たり約10分の全17話、来年2月の完結を予定している。11月27日は、同市朝見の喫茶店「茶房たかさき」で、食事をしながら別府の魅力語り合う最終回の撮影があった。店主の高崎富士夫さん（78）は「学生目線で見た別府を発信してくれることは大変ありがたい。全国に別府は元気だと伝わるといい」と笑顔。

③11月27日に最終回の撮影が行われた喫茶店の店主、高崎富士夫さん（78）は何と話していますか？

.....
.....

④製作指揮を執る平末健人さん（23）は何と話していますか？

.....
.....